



花園大学

2017
March
Vol.94

同窓会通信



CONTENTS

廣瀬順子さん凱旋セレモニー	2
花園大学師弟座談会	8
福富 昌城(社会福祉学部社会福祉学科教授)	
田中 収人(小規模多機能ホーム 勤務)	
中谷 美聡(特別養護老人ホーム 勤務)	
武田 拓也(社会福祉学部3回生)	
千本 祥貴(社会福祉学部3回生)	
同窓会ニュース	14
大学ニュース	18
お元気ですか/学生の活躍	20
各種案内	22



おかえりなさい、

廣瀬 順子さん

祝 リオ・パラリンピック 女子柔道初銅メダル獲得

学園スポーツ栄誉賞が授与されました。栗原理事長は「リオ・パラリンピック女子柔道において、見事銅メダルを獲得されました。これはひとえにあなたのためめ努力の賜物であります。今後の活躍に期待します。」と廣瀬さんの偉業を称えました。

さらに同窓会を代表して足立禪英副会長が登壇し、「この度は誠に素晴らしい感動をありがとうございました。四年先、二〇二〇年には、東京で悠さんとともに素晴らしい活躍を期待しています。」との言葉とともに同窓会特別賞が贈られました。

廣瀬悠さんとともに
柔道に打ち込む日々



廣瀬順子さんが視覚障害者柔道を始めたのは、本学の三回生の時からでした。「視覚障害者柔道をご存知ない方も多いと思います。通常の柔道と違うところは、組み合ってから始まるところで、それ以外はほとんど通常の柔道と変わりません。」と廣瀬さん。競技については、障害の程度によるクラス分けは為されず、体重別で実施されます。廣瀬さんは五七kg級の選手です。廣瀬さんは、これまでに二〇一四年、インチョンア

ジアパラ競技大会で二位、二〇一五年 IBS Aワールドゲームスで五位、IBSAワールドカップ（ハンガリー）五位、第三〇回記念全国大会一位と、国内外の大会で輝かしい成績を残してきました。

そしてリオ・パラリンピックでは、夫婦揃って日本代表となり、話題になりました。順子さんは、夫の廣瀬悠さんとは二〇一三年にアメリカであった国際大会で初めて知り合ったといいます。意気投合して、お二人の交際がスタートしますが、順子さんが東京で、悠さんが愛媛という遠距離恋愛の状態となりました。「遠いから別れようか」という話にもなったのですが、距離が問題ならば、結婚してしまえばいいとひらめきました。私は病気をしてから後悔しない人生を生きようと決めているので、悠さんと一緒にやりたいと決めて、私からプロポーズをしました。」と順子さん。

現在お二人は、伊藤忠丸紅鉄鋼という会社に所属し柔道の稽古に励んでいます。入社に至った経緯について悠さんは、次のように語ります。「以前は僕も別の会社の正社員でしたが、転職を考え、たまたま今の会社に面接に行ったときに、僕自身は三十七歳で年齢的に採用されるのは厳し

凱旋セレモニーで
偉業を称える



二〇一六年十月十四日、リオ・パラリンピック（二〇一六年九月）で日本女子柔道初の銅メダルを獲得した本学卒業生、廣瀬順子さんが夫の廣瀬悠さんとともに凱旋報告のため母校に帰ってこられました。それにあわせ、自適館において凱旋セレモニーを挙行了しました。お昼休みにも関わらず多くの在学生・教職員、報道関係者が会場に詰め掛け、廣瀬ご夫妻が入場すると大きな拍手が会場を包み込みました。お二人は歓迎の拍手の大きさに驚きながら、笑顔で登壇されました。

まず丹治光浩学長より廣瀬順子さんに花園大学スポーツ賞が授与されました。これは世界で輝かしい実績を残した花園大学の学生や卒業生に対し、その栄誉を称え、授与される特別な賞です。丹治学長は「日本中に勇氣と元氣を与えたその果敢な姿は、花園大学卒業生として、本学の誇りであります。」と述べながら、表彰状を手渡しました。

続いて、花園学園栗原正雄理事長より、花園いかなと思つたので、「僕よりいい人がいますよ。今度、結婚する人なのでですけど、ネットで検索してみてください。」と言って、順子さんのことを伝えました。その後、人事の担当者から「見ました！見ました！」と連絡があつて、彼女と一緒に僕も採用してもらいました。」そして、お二人は二〇一五年十二月にご結婚



されました。順子さんと悠さんは、会社でも家庭でも二十四時間一緒に生活を送っておられます。嫌にならないですかとの質問に対して順子さんは「私のほうは、結構一緒にいたいタイプなので、苦になることはなくて、一緒にいられることが幸せです。」それに対し悠さんは「結婚されている方はわかると思いますが、二十四時間体制は結構きついです。」と云って、会場の笑いを誘っていました。その悠さんが、順子さんに対して「いつも笑顔を決やさないでいてくれるので、幸せいっぱいです。ありがとうございます。」と云うと、ひときわ大きな拍手が会場で湧きあがりました。柔道においては、悠さんが順子さんのコーチ役も務めています。当初はあまり得意ではなかった寝技についても、悠さんの指導により順子さんは自分のものとしていったといいます。

銅メダル獲得、 二〇二〇年東京に向けて



リオ・パラリンピックでは、順子さんは一回戦でアゼルバイジャンの選手を相手に横四方固めで一本勝ちをしましたが、次の準決勝では地元ブラジルの選手を相手に、指導を受ける苦し

い展開で敗れてしまいます。その後、三位決定戦において、スペインの選手を相手に一本背負投の技ありから抑え込みに入って勝利を手にします。その瞬間、銅メダルが決定しました。女子柔道がパラリンピックで採用された二〇〇四年アテネ大会以来、日本勢としては初のメダル獲得です。勝利の瞬間、喜びを爆発させる選手も少なくないなか、順子さんは、一礼すると淡々と畳を下りました。そのときの心境について順子さんは次のように語ります。「柔道においては、試合相手を尊重することが大切なので、勝ったからと言って畳の上でガッツポーズすることは好まれません。だから私もガッツポーズはしたくありませんでした。それから、私の場合、試合が嫌いなので、勝って嬉しいというよりは、やっと終わったという安堵感の方が大きかったですね。今回のパラリンピックでは、一回戦と三回戦の選手は以前負けていた選手で、そこには勝つことができたのですけれど、準決勝のブラジルの選手は、パワーで負けていたりとか、外国の雰囲気にもまれてしまったということがあったので、もう一つ壁を越えないといけないと思いました。」

観客席から試合の様子を見守っていた悠さん

人生の転機となった 花大での学生生活



続いて凱旋セレモニーでは、丹治学長から挨拶がありました。「廣瀬順子さん、花園におかえりなさい。そして廣瀬悠さん、ようこそ。私の勝手な印象では、悠さんは、ごつくて怖そうなイメージがあったのですけれど、そんなことないですね。とてもおちゃめな方で、本当にユーモアのある方です。一方の順子さんは、見た感じも、柔道をやっているというだけでも驚きますが、さらにメダルを獲ったというのですから、本当に驚きます。昔から『柔良く剛を制する』という言葉がありますが、順子さんを見ていて本当なのだと思います。実は順子さんのことは、どこかで見たことがあるなと思っていたのですが、ご本人に確認するとフレッシュマンゼミで私のゼミ生だったんですね。学生のときと今では、イメージが違うので、本当に別人だと思っておりました。」

廣瀬順子さん、旧姓三輪順子さんは、二〇一〇年花園大学社会福祉学部臨床心理学科に入学。凱旋セレモニーでの挨拶で、順子さんは本学への

入学の経緯について次のように触れました。「まずは、私のためにこのような会を開いていただき、本当にありがとうございます。お集まりいただいた皆さん、貴重なお昼時間に本当にありがとうございます。実は、花園大学は私にとって二つ目の大学です。高校を卒業して、最初は広島大学に入学しました。しかし一回生のときに病気になる、リハビリセンターに入ることになり中退せざるを得なくなりました。目も悪くなってしまったし、もう大学に行くことは無理かなと思っていたのですけれど、たまたま、そのリハビリセンターにいた職員さんが、花園大学の卒業生でした。その方が、花園大学には、自分が学生の頃には、目の不自由な方も通っていたので、支援してくれるよという話を聞いて、それでは花園大学に行こうと決めて、すぐに受験勉強を始めました。」

順子さんは、本学での学生生活を懐かしそうに振り返ります。「入学して禅堂があることに驚きました。また坐禅の授業があるというので、すごく印象的でした。新しい世界を知ることができ勉強になりました。授業のときは教務課の方や履修指導室の方がいつも毎回レジュメを大きく拡大してくださって、そうした支援があった

は、順子さんがメダルをもらい戻ってくるのを見て近寄り、獲得したばかりのメダルを触ったと言います。順子さんは、「本当に巨那さんが指導してくれて取れたメダルでもあると思うので、すごく感謝しています。」と試合後のインタビューで答えました。

一方、男子九〇kg級に出場した悠さんは、一回戦でロンドンの金メダリストであるキューバの選手と対戦して優勢負けし、続く敗者復活戦でもイギリスの選手に敗れ、残念ながら夫婦そろってのメダル獲得とはなりません。今回、選手兼コーチをやっていたのですけれど、順子さんのほうに稽古をつけすぎて、僕のほうが一回戦で敗退するという結果になりました。今度は順子さんの背中を追いかけて、次回の東京パラリンピックでは、銅メダルを目指して頑張りたいと思います。」と悠さんが言うと、順子さんは「四年後、悠さんは四十一歳になるのですけれど、がんばってくれるそうなので、二人で金メダルを、二つとって、帰ってきたいです。」と応え、お二人に対して、会場からは大きな拍手が贈られました。

おかげで、不安を感じることなく勉強することができました。私は、在学中「トライアングル」というダウン症の方の支援をするサークルに在籍していましたが、そのサークルを通じて、すごく大切な友達がたくさんできました。授業のとき、私は少しでも見えやすいように、一番前の席で授業を受けていたのですが、友人は嫌な





顔ひとつすることなく一番前の席で一緒に受けてくれました。本当に花園大学には感謝していますし、楽しい思い出がたくさんあります。」

順子さんが視覚障害者柔道を始めることになったきっかけは、在学中のボランティア活動での出来事にあるといいます。順子さんは小学校五年生の時に「あわせて一本一」という少女漫画に影響を受けて柔道を始め、高校ではインターハイへも出場するなど活躍をしていましたが、病気になるてからは柔道を離れていました。しかし、順子さんに転機が訪れます。「ボランティアで、ゴールボールという視覚障害者のスポーツ大会のお手伝いをしたのですが、そのときにスポーツをしている方というのは素敵だなと思い

ました。その姿を見て、自分も何かしたいと思いました。昔やっていた柔道を思い出し、視覚障害者柔道を始めることにしたのです。」

卒業後も続く ゼミの先生や仲間との絆



凱旋セレモニーでは、順子さんの指導教員であった藤井渉准教授も登壇し、藤井先生を司会として、廣瀬夫妻と丹治学長も加わり、座談会となりました。まず藤井先生が順子さんの学生時代の印象を次のように述べました。三回生、四回生のときにゼミ生で、卒業論文の指導を担当させていただきました。私の専門は、障害者福祉論ですが、順子さんは障害者の福祉について研究したいということでゼミを選んでくれました。丹治学長も順子さんは学生時代と印象が変わったと言われましたが、三回生のときは、顔つきが全然今とは違っていたと思います。おしとやかな感じで、あまりしゃべらなかつたと思います。ただ話をしてみると、芯があつて強く、しなやかで、たおやかな印象でした。当時、既に柔道の練習を再開していて、自分のペースで柔道をやっているのが私の記憶に残っています。」

順子さんは「京都は自分にとって大切な場所」と言います。「大学時代が本当に楽しかったので、時間ができたら、京都に帰って友達に会いたいなと思います。」卒業後も順子さんは半年に一回程のペースで藤井先生のゼミ室に顔を出しているといいます。「私はラーメンが好きなので、順子さんが来るとゼミ生と一緒にラーメンを食べにいったりします。」と藤井先生。「でも行くとならめん屋が閉まっていることが多いんです。」と順子さん。このように、卒業後も親密な師弟関係が続いており、悠さんとの結婚についても「去年のクリスマススイブのときに研究室に連れて報告を受けました。」と藤井先生は言います。

悠さんにとって、順子さんと一緒に京都に来るのは今が初めてのこと。「順子さんから、小中高は友達が少ないというのは聞いていたのですけれど、大学のときは友達がたくさんできて、楽しそうな写真をいっぱい見せてもらっていたので、大切な場所なのだなと思っていました。やたらと京都をすすめてくるのですけれど、今回やっときました。教職員の皆さんも大変に温かい方々ばかりで、やはりいい学校だなと思いました。」

諦めずに 続けることの大切さ



この日、廣瀬夫妻は、本学を訪れる前に、京都市役所を表敬訪問しており、そこでの京都市長とのやりとりを順子さんが披露しました。「市長さんが、日本は段差が解消されたり、エレベーターが設置されたり、施設面でのバリアフリーはできているかもしれないが、心のバリアフリーはまだ足りない気がする」と仰っておられました。この花園大学は、心のバリアフリーがしっかりとできていて、素敵な大学だなと思っています。パラリンピックに出場することが決まっています。花園大学からもたくさん応援の声をいただいで、本当に皆さんの応援のおかげでこうして銅メダルを持って帰ってくることができたと思っています。まだまだパラリンピックは、オリンピックに比べて知名度が低くてやっと今メディアに取り上げてもらえるようになったところですが、私が柔道を頑張ることで、少しでもパラリンピックのことを皆さんに知っていただいで、障害者のイメージが明るいほうに向かっていけばいいなと思っています。」

悠さんも障害者スポーツの現状と今後について次のように言います。「東京での開催も決まれば援助面は充実して来ていると思いますが、まだまだ練習する場所が不足しています。視覚障害者でも僕たちは弱視なので高校や大学などに受け入れてもらいスポーツをすることもできませんが、怪我をしたら危ないといった理由などで全盲の方の場合は、スポーツ普及が遅れている面もあります。僕たちのことがマスコミで取り上げられることなどを通じて、障害者スポーツに対する社会の理解が広まり、健常者・障害者が分け隔てなく、スポーツができるそんな社会になればいいと思います。」

順子さんに後輩の花大の学生にメッセージをお聞きすると、次のような答えが返ってきました。「今回、銅メダルをとって地元に戻った際に、高校時代の柔道部の監督から、『才能というよりも努力で成しとげることができるということを証明してくれてありがとう』と言ってもらいました。高校の頃は、声もかけてもらえないぐらいの雲の上の存在の先生でした。その先生から、今、そう言ってもらえ、がんばって柔道を続けて来てよかったと思います。諦めないで続けていけば、こういうこともあるのだなと実感しま

した。学生の皆さんも、勉強や部活など大変なこともあるかと思いますが、決して諦めないで続けてください。続けていけば、絶対何かが自分に帰ってくると思います。」

最後に本学から花束贈呈が行われ、凱旋セレモニーは盛況のうちに終了しました。

祝！ 花園大学卒業生 廣瀬順子選手
リオ・パラリンピック 銅メダル！





花園大学 師弟座談会



千本 祥貴さん
社会福祉学部3回生



武田 拓也さん
社会福祉学部3回生



中谷 美聡さん
社会福祉学部
社会福祉学科
福祉介護コース
平成27年3月卒
特別養護老人ホーム
同和園 勤務



田中 収人さん
社会福祉学部
社会福祉学科
福祉介護コース
平成22年3月卒
株式会社ユニバ 勤務



福富 昌城先生
花園大学 社会福祉学部教授

ソーシャルワーカーの仕事とは

福富▼花園大学社会福祉学部の福富です。本日は、卒業生が母校に帰ってきてくださいました。お忙しい中ありがとうございます。まず自己紹介をしたいと思います。

田中▼田中収人です。二〇一〇年社会福祉学科介護コースを卒業し、特別養護老人ホーム介護福祉施設に職員として四年間、小規模デイサービスで二年間勤務した後、株式会社ユニバに転職し、現在、介護職員として勤務し、社内ではサービスマンとして研修担当者を務めています。また福富先生に声をかけていただき、現在、花園の大学院で学んでおります。

中谷▼中谷美聡です。二年前に同じく介護コースを卒業しました。現在は醍醐にある特別養護老人ホーム同和園で勤務しています。福富先生から、いい施設だから行ってみたいと背中を押していただき入職し、ケアワーカーとして働かせてもらっています。

福富▼今日は、折角なので在校生にも二名来てもらいました。自己紹介をしてくださいます。

千本▼社会福祉学部三回生の千本祥貴です。今、コンビニでアルバイトをしています。徹夜で朝八時まで勤務していました。

中谷▼え、それじゃあ、眠いでしょう。

千本▼でも折角の機会なので、今日は話をお聞かせるのを楽しみにしています。将来は児童養護施設で働きたいと思っています。

武田▼同じく三回生の武田拓也です。今はスーパーでアルバイトをしながら、大学に通わせてもらっています。幼稚園の頃、乱暴者だったので、礼儀を学べということで、小学校一年から空手を始めました。将来は児童福祉に携わりたいと考えています。

ました。また畑をしたい方がおられたので、テールブルぐらいの広さしかありませんが、白菜を植えることをしました。私達から刺激して入所者の生活にメリハリをつくり、楽しんでもらえたらと思っています。私が仕事をするうえで、一番大切にしたいと思っているのは、入所者と一緒に共感できる関係をつくることです。

福富▼中谷さん、今、お仕事はいかがですか。
中谷▼特養の場合、入所者と二十四時間かわるので、やはり入所者の方も感情や気分の波があります。イライラされているときなどは、寄り添うようにして、話をお聞きするようにしています。特養の場合、そこで一生を終える方も多いためです。先日も私のユニットで、入所後、今までの楽しみが無くなるようでは残念だと話し、できることを工夫しています。例えば、毎日相撲中継を観ているおじいさんがいるので、実際に大相撲を観に行くレクリエーションを企画し

田中▼特養で勤務していたとき、呉服屋のおばあさんがおられました。体力的にも落ちて来ていて、もし外出するのであれば今だなということで、希望を聞いたところ、旦那さんのお墓参りに行きたいということで企画書を作成しました。三条に有喜屋という老舗の蕎麦屋があるので、お墓参りの際に、そこで食事をしたいたうので、下見に行き、段差がどのくらいあるかなど確認をしました。お墓参りまで少し期間があったので、有喜屋に通って、常連になり、おばあさんの話をし、車椅子で来ること、座りやすい席を当日とっておいてもらうことをお願いし、快諾していただきました。おばあさんにお店の写真をみせて、「段差があって車椅子が入れなかつたら、歩かないといけません」と言っていて、「どうすればできるか考えていきますか」と言いました。それに対しておばあさんは歩く訓練



福富▼今の話で、「段差があるけど、どうするか一緒に考えましょう」とありましたが、これがソーシャルワークの大事なところですね。援助者が援助する役で、利用者がしてもらう役というのではなく、あなたの目標を達成するために一緒に考えて、一緒にやりませんかというのが大事です。彼はさらっと言いましたが、凄いなと思います。



実習が考え方や生きる姿勢を見直すきっかけに

武田▼僕は今年実習に行くことになりました。実習はいかがでしたでしょうか。

中谷▼私は、最初の実習としてデイサービスに五日間行きました。そのときは担当の先生からきつく叱られました。私は、実習に行けば何か教えてくれるものと思っていて、受け身の姿勢で臨みました。職員さんに言われたとおりに動く感じで時間を過ごしていました。すると担当の先生に「なんでそんなに意欲が無いの」ときつく叱られました。これではいけないと思って、次の実習から、積極的に質問するようにしました。なぜ二人で介助しているのだろうか、なぜ

しゃがんで話をするのだろうか、些細な点に疑問を持つことが大切ですね。そういう視点を持っていれば、座学のみでは得られない知識を得ることが出来ます。私はあのとき、先生に叱られたからこそ、今、現場に出ることができていると思います。言われたとおりに行うことも大切なのですが、それに加えて積極性があれば、意義のある実習になると思います。

田中▼印象に残っているのは二回生のときの実習です。実習先の施設にあるおばあさんがいました。その方は三日間起き続けて一日寝るとい生活をしていて、ナポレオンおばあさんと呼ばれていました。職員さんから、そのおばあさんの対応を任せられました。おばあさんは、「息子はずいぶん帰ってこないのか」と小言を言うので、「息子さんどうされたのですかね」と聞くと、息子さんの話をずっとしてくださいました。それで、話し終わると、普段は寝ないおばあさんが部屋に帰って寝られたのです。そのとき、福祉の仕事は面白いなと思いました。それまでは、卒業したら洋服のディーラーになろうかと思っていたくらいでしたが、そこから福祉の道を選ぼうと考えるようになりました。そのときは、今でも鮮明に覚えています。



千本▼僕も、去年の夏に児童養護施設に実習に行ってきました。とてもいい施設で、職員の皆さんもいい方ばかりでした。

福富▼大変なことはありませんでしたか。

千本▼入所者の男子中学生に暴言を吐かれて困りました。機嫌を損ねないように注意していたのですが、少しでも気になくわいことがあったのですが、少しでも気になくわいことがあったのですが、「死ぬ」と言われます。言われ始めたのは実習の二週間目ぐらいからです。最初の二週間はまだ距離があって言われなかったのだらうと思います。でも最後に「死ぬとか言ってごめん、今までありがとう」と言われ、そのときは、泣きそうになりました。

福富▼子供さんは、しんどいものを抱えているから、それを表現したいけれど、そういう形では出せなかったりします。それをぶつけられるほうはしんどいよね。子供には健やかな部分もあるのです、そこを引き出すことを考えねばなりません。虐待された経験があると、その子にとって大人といえば虐待する存在です。しかし、話を聞いてくれる大人、じっくり見守ってくれる大人もいることがわかって初めて、その子が生きていく力が来ます。児童養護の場合は、普段の生活が一番大事だと言います。例えば帰っ

てきたときに、「お帰り」と言ってくれる人が待っていてくれるとか、家の中がきちんときれいになっているとか、何気ない日常をどうやって作るか。そういう日常が乏しい子たちなので、その子がまずは安心して生きられるように職員が支え、それを続けていくなかで、その子の生きる力をつけていくことが求められます。

ケアマネージャーは刑事コロンボ

武田▼近い将来、自分も福祉の現場で働けるか、正直不安もあります。福祉の現場ではどういう人材が求められていますか。

中谷▼そうですね、言葉だけのやりとりではなく、表情や態度などを観察して、「今日はちょっと傾いているな」とか、ほんの些細なことですが、そういうところに気付けたりするといいですね。やはり、その人の気持ちをわかっていく姿勢が大切ではないかと思っています。

福富▼渡部律子先生の本のなかに、「ケアマネージャーは刑事コロンボ」という一節があります。援助者には、支援を必要とする人の人生を解き明かしていく力が求められます。そういう意味では、ソーシャルワーカーの仕事は、地道に観察

をして、地道に話をきいて、地道にその人と関わっていくなかで謎を解いていく刑事コロンボと一緒にあると書いてあります。

田中▼今、僕は大学院で、どうすれば、福祉の現場でよいチームを形成できるかについて研究しています。インタビューや調査した結果では、吸収力がある人、まっさらで何でも学びたいという意欲をもった人材が求められていると思います。あるいは、自らの弱い部分を自分のなかですっかりと受け止め消化していく力や利用者の思いを優先的に聞くことができる人、さらには利用者さん以外にご家族とか地域の方々とのコミュニケーションがとれる人という点なども挙げられますね。





福富▼武田君が就職を希望する児童養護施設では、子供さんは元気なので、荒れている子がいったりすると、どうしても管理するほうに走りやすいです。しかし、そうではない施設もあります。千本君がお世話になったつばさ園の石塚先生から聞いた話ですが、入所者の男の子が夜、マクドナルドを食べたいと言出し、「食わしてくれなかつたら、おれは死ぬ」とか騒いだそうです。石塚先生は、「しょうがないな」と言いながら、近所のマクドナルドまで連れて行って、二人でハンバーガーを食べたそうです。それを何回かつきあつたそうです。その子が最後に施設を出ていくときに、「この暮らしはごうだった？」と聞いたら、「マクドがよかった。普通であれば、もう夜なんやから寝なさい」と言ったりするの

だらうけれど、それを付き合ってくれるというのが一番よかった、おれを見てくれている大人がいるのが」と言つたそうです。仕事には枠があつて、基本は、そのなかでやるものだけれど、ときには、枠からはみ出したり、枠の外側を見たりできる、そういう人がたくさんいたら面白い施設だろうと思いますね。

田中▼今後、福祉の世界では、どのようなことが課題になりますでしょうか。

福富▼これまでは、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉とそれぞれ分野に分かれていて、その分野のなかでそれぞれ支援をする形がとられていましたが、その枠組みを外して組み立て直すという動きが、昨年ぐらゐから出てきています。実はひとつの世帯のなかに高齢者の問題と一緒に児童の問題があるなど、複合している困りごとを抱えている人がたくさんいます。その対応には、分野間の連携が欠かせません。ワンストップの相談窓口で対応して、専門部署になぐという仕組みに変えていこうというわけです。一人の人がいると、その人は家族の中にいて、さらにその周りには親戚や近所の人がいいて、その外側にさまざまな社会があり、支援する福祉施設や福祉専門職がいます。こうしたエコシス

入学したわけではありません。幾つかの大学も観てまわつた結果、田中さんも言われたとおり、花大は先生との距離が近くて密に教えてもらえるのがよいと思つて、花大を選びました。入学後は、介護、福祉のボランティア団体や音楽同好会に属して、ほとんど予定を入れて毎日を楽しんでいました。それから喫茶店でバイトをしていたのですが、常連のお年寄りのお客さんが多くて、卒論の際には、その方々にインタビューして論文を書きました。その方々は、今はお元

気ですが、そういう方が介護サービスを受けるときの抵抗感を聞かせてもらいました。

福富▼そうですね、面白い論文でしたね。

田中▼授業に関して言えば、二回生後期の「援助技術」が印象に残っています。介護は、力と勘



でやるものだと思つていたのですが、介護者が提供するサービスの背後には、理論や技術がきちんとあることを知りました。大学で学ぶ理論は、昔、先輩たちが、何かしようと思つて、頑張つてきたことの蓄積だと思ひます。先輩たちの経験が理論として蓄積されているので、後の世代はそれを引き継ぐことができます。さらに新しい理論や技術を付け加えて発展させることもできます。そこが福祉分野の面白さだと思ひます。花園大学での四年間は、先人と先輩からのバトンを受け取つて、福祉の現場で活躍するための準備期間だと思ひます。就職後は、先人が積み上げてきたものが100だとすると、福祉の現場で僕らが、それを101にすることを目指すわけです。そうやって、先人と先輩から受け取つたバトンをさらに次の世代に渡していくことができるのが福祉分野の面白さだと思ひます。

福富▼福祉分野は、縁の下の力持ちで、あまり目立つ職種ではありません。でも資本主義の社会である限り、貧困やそれにかかわるような福祉の問題は必ず起こってきます。だから皆さんは、凄く大事なことを勉強してくれていると思ひます。本日はお忙しいところ、集まっていたいただきありがとうございます。お二人のご活躍を

チーム的な観方で人を捉え、システム全体を見ながら仕事をするのがソーシャルワーカーには求められています。そのときに今日お二人が言ってくれたように、その人の行動とか言動の意味を、そういう時間や空間のつながりの中で読み取れるような力量が援助者には必要だと思ひます。

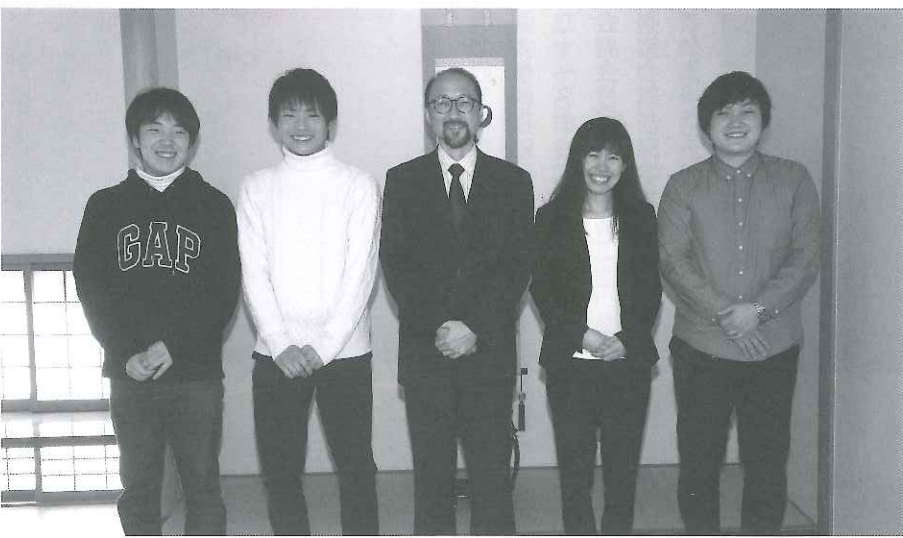
花大での四年間は重要な準備期間

福富▼田中君は一昨年結婚されて、奥様も卒業生です。私が実習担当でした。大学時代の思い出はありますか。

田中▼思い出がいろいろあります。ただ一つ言えるのは、先生方と学生の距離が近いことが花大の魅力だということです。授業以外でも、わからないことがあれば、研究室を訪問すると教えてもらえます。そうした際に先生方の福祉観や介護観を一对一の対話のなかでお聞きすることができました。先生方の福祉に対する志の高さを知り、自分なりに志を持つて仕事をしようと思ひかけています。花大では、たくさんの方に恵まれました。

中谷▼私の場合、それほど明確な意志を持つて期待しています。在校生も今日の話を参考にぜひがんばってください。

卒業生・在校生一同▼ありがとうございました。



同窓会ニュース

時代は変わっても続いている卒業生同士の交流や親睦。
今年度も、支部総会・役員会、同窓会など多数開催のご報告を
いただいております。一部をご紹介します。



佐賀県支部総会

文学部日本史学科教授 松田 隆行



去る七月十一日(月)・十二日(火)に、佐賀県唐津の唐津シーサイドホテルにて開催された花園大学同窓会佐賀県支部総会に参加しました。十一名の会員の皆様に参加され、私は花園大学の近況報告をさせていただきました。この総会から一か月ほど前の硬式野球部の京滋リーグ初優勝、そして私自身も応援に行った神宮球場での全日本大学野球選手権の試合などを報告しました。大学の近況については、総会中・終了後も多くの質問をいただき、同窓生の皆様の花園大学への強い関心と愛校心を実感しました。

また、終了後の懇親会では、これまでの人生経験に基づいたお話しなどを、支部の皆様からお聞かせいただき、貴重な体験をさせていただきました。

同窓会兵庫西支部総会及 河野大通老大師花園大学総長就任祝賀会

兵庫西支部長 田中金作

去る九月十三日、播州赤穂温泉 銀波荘にて兵庫西支部第二十八回総会及河野大通老大師花園大学総長就任祝賀会を開催致しました。会員二十一名の参加、大学より丹治光浩学長、同窓会副会長足立禪英氏、南大阪支部長那須宗弘氏、同窓会事務局学外・地域連携係長西澤直美氏にご参集頂きました。



ながら拝聴致しました。

懇親会席では、先の公開講演会に対して広告宣伝と協賛頂いた、神戸新聞社、デイリースポーツ紙、サンテレビジョン、ラジオ関西の報道関係者も同席して、事務局の浅尾氏による名司会進行による、恒例の景品抽選会が行なわれました。神戸飯店より特別提供品も含めて、参加者全員に何らかの土産をお持ち帰り頂きました。

直美両名のご出席を頂きました。午後五時より、支部長挨拶、大学の近況報告、会計担当者の前年度会計決算書説明、引き続き支部総会と言つ組織自体、このまま行けば、近い将来自然消滅して無くなる危険性を感じ、三、四年前から懇親会までの残された時間、テーマは唯一「卒業生をいかに集めるか」出席者全員と良い知恵を出し合う。又役員の方達は年一回程度場所を変えて話し合いを重ねております。今年の意見として、三重県は南北に長い県である。三分割にし、青年部を作り、全体会を年一回開催すると言つ意見にまとまりました。皆様方の考えを取り入れ一人でも多くの参加者になるよう努力しております。総会終了後、懇親会に移り、和やかな一時を過ごし、最後に全員で学歌を歌って散会となりました。

兵庫県東支部総会

事務局 原田 太胤

去る十一月三日、第八十七回花園大学公開講演会に続いて、会場近くの神戸飯店にて兵庫県東支部総会を開催しました。

昨年と同様、同窓会本部副会長足立禪英師並びに大阪南支部長、兵庫西支部長にも御同席頂き、花園大学から有吉教務部長、同窓会事務局西澤総務部学外・地域連携係長より丹治学長提案による地産スイーツ、名付けて「学長スイーツ」や、先のリオデジャネイロパラリンピック柔道女子銅メダル廣瀬順子選手母校凱旋の話題も含めて、大学の現況を御挨拶の中で、資料回覧し



三重県支部総会

三重県支部長 河相 健成

津駅前ホテル「グリーンパーク津」にて、十一月十二日、平成二十八年三重県支部総会を開催し、支部会員十八名、大学より福富昌城、西澤



大学ニュース

二〇一六(平成二十八)年度報告

花園大学で行った行事やイベントなどを
中心とした新しい情報をご紹介します。

第八十七回 公開講演会

十一月三日 ビブレホール

岡田、バース、掛布の甲子園バックスクリーン三連発ホームランを記録した年に、プロ野球日本一になった阪神タイガースの選手として又、その後の監督としても活躍され、地元神戸市オリックスの選手、監督にも就任経験のある岡田彰布氏を講師として招きました。花園大学同窓会兵庫東支部としては、十二年連続十三回目の講演会でしたが、地元人気球団の関係者の講演とあって開場一時間前より長蛇の列が出来た為、開場を早めて、予定の開場時間頃には満席となり、花園大学OB関係者等に席を譲ってもらって追加入場しても尚、百数十名の方が入場出来ず、入れない方々が入口付近で騒然となっていました。支部長より説明謝罪をしても収まらない所に講師の岡田氏が来て「僕の話の聞きにわざわざ足を運んで来てくれてありがとう。こういう状況になってし



まってごめんなさいね。」という一言が有るや否や入場出来なかった方々より拍手喝采で無事収まるという出来事がありました。「プロ野球今シーズンを振り返る」と題して、野球解説者の目線での評価や、プロ野球監督経験者ならではの人選起用や苦渋の判断、負けるべくして負ける事例を挙げ、面白おかしくも野球道一筋指導者としての心の持ちようを語って頂き、質疑応答の時間では、今後の阪神タイガースのありよう等自身の意見を率直に回答されました。講演会開催毎に、出来る限り多くの来聴者を願ひ腐心して来ましたが、今回のような出来事は初めてで、今後の課題として教訓を得ることになりました。入場出来なかった方の中には、多数の同窓の方々もおられ、改めて紙面をお借りしお詫び申し上げます。事務局(原田太胤)

大学攝心 二〇一六(平成二八)年度

国際禅学研究所

今年度の大学攝心が、九月十六、十七日に行われ、学生教職員百十七名が参加しました。

一日目の十六日は、午後十二時三十分には臨濟宗大本山相国寺に集合、午後一時に方丈に全員着座し、安永祖堂・仏教学科教授より坐禅の主旨・坐り方の指導を受けて坐禅に入る。午後二時十五分より相国僧堂師家・小林玄徳老大師の法話を拝聴しました。法話後、再び坐禅に入り、午後三時四十分、二班に分かれて、歴史の重みのある相国寺の諸堂を拝観させていただき、四時二十分、初日の日程を終えて解散しました。

二日目の十七日は、午前九時に花園大学教堂前に集合し、無文館二階禅堂にて坐禅を行ない、午前十時三十分より、教堂一階ホールに移り、柳幹康・国際禅学研究所講師の講義を受け、前日の御法話と併せて「禅」の世界への見識を深めました。午前十一時四十分、真人館学生食堂に移って、うどん供養が行なわれ、午後一時から禅堂で坐禅に入り、一時五十分、



安永教授より、「この体験を、各人各様日々の生活に活かしていただきたい」と総括の言葉をいただき、二日間の日程を終了しました。

第八十八回 公開講演会

「池上彰講演会」

十一月十二日

ホテルアゴラ・リージェンシー堺

花園大学同窓会の皆様へ

此度、花園大学同窓会南大阪支部が誕生し無事三周年を迎えました。これを機に記念行事として公開講演会を企画致しました。

講師にニュース解説でおなじみの池上彰氏を迎え講演題「世界のこれからと日本人のあり方」について講演頂きました。

講演会には同窓生を始め地元の堺市長、一般市民の方々約七五〇名に参加頂き、無事終えることが出来た事をご報告いたします。

この企画を実行するに当り学長丹治先生、花園大学関係者様、地域の皆様、南大阪同窓会会員方々のご協力を頂きましたことを深く感謝申し上げます。言葉とさせて頂きます。



ありがとうございました。
(花園大学南大阪支部 一回)

HLP (花園大学リーダー輩出プロジェクト)

概要

大学四年間を通して、全員丸となって取り組むミッションや個々のチャレンジなど、様々な体験を重ねることで、自分の夢を見つけ、実現させるために必要な力を身につける成長の場です。

二〇一六年度メンバー

- | | |
|------------|------|
| ゼミ長 辻本美裕 | |
| 副ゼミ長 下沢真衣子 | |
| メンバー 小山 創 | 元木拓也 |
| | 野田一真 |
| 高嶋一臣 | 為沢奈美 |
| 人見貴裕 | 野間光晴 |

二〇一六年度の活動内容

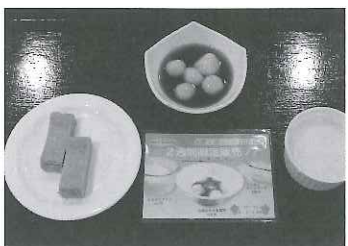
- 〈全員で取り組んだミッション〉
- ・京都市右京区京北町産のクロモジと山椒を使った学長スイーツ開発プロジェクト
- ・大学・地域連携サミット(愛称:学×地(カッチ)リンク)に参加

- ・「社会人基礎力育成プログラム」近畿地区予選大会 チャレンジ

※その他、個人で取り組んだ活動も多々あります。

苦労したこと

学長スイーツ企画がなかなかうまく進まなかった



り、また他の企画を同時並行で行わなければならないと、何かも投げ出したくなることもありましたが、そんな時、話を聞いてくれたり相談したりできるメンバーや先生がいること、そして先生の「今を乗り越えればきっと成長できる。もう少し頑張ってみない?」という励ましの言葉が心に残っています。自分は人じゃない、支えてくれる人がいると思ひ、HLPの活動を続けることができました。

印象的なこと

印象的だったことは、京北合宿です。学長スイーツで使用するクロモジ・山椒の生産地である右京区京北町を知るため、合宿を行いました。合宿では、自分から行動を起こすことにより、人と出会い、その出会った方から数珠つなぎのように、どんどん紹介の輪が広がり、繋がりを体感しました。こうした地域の方々の紹介のおかげで、「学長スイーツ」が誕生したのです。

展望

二〇一七年度は「HLP」の名称や形を変えパワーアップします。

今後は、地域連携に力を入れていきます。

今回の「学長スイーツ開発プロジェクト」で築きあげた京北町との関係を活かし、京都市右京区の皆さんや京北町地域の皆さんと学生で地域を盛り上げていきたいです。京北町以外にも、HLPがフィールドワークでお世話になった東北(宮城県南三陸町)とも繋がりをもち、私たちにできることを考えたいと思います。



お元気でですか

活動しています。

十月の今は、収穫の秋ということで、リンゴ、ブドウの収穫におわれています。

長野県飯田で農業女子やっています。

平成二十八年度NAGANO農業女子の公式パンフレットに私も出ています。

デジタル版もあるのでは是非見てみてください。

暮しの中に持てなくなっていくことは、恐ろしいことです。花園大学は、その建学の精神からか、人間に対して誠に寛容で柔らかな大学でした。今もそうであると思います。私が入学した九八〇年は、四学科、各百名の学生が在籍し、日本レースの風呂を転用したと噂のあるタイル貼りの円形の池がある小さなキャンパスでした。後に私が属する民俗学ゼミの芳井敬先生は、オリエンテーションの受付で新入生と間違えられて、受付の人に「史学科の何番？」と学生番号を聞かれていらつやいました。北海道から沖縄までの学生が集っていた私たちの学

平成七年文学部社会福祉学科卒

藤井 千尋 (歌手・作曲家 ちひろ)

今年の八月三十日に、広島東洋カープ公式戦の対DeNA戦にて、開始前の国歌斉唱をさせていただきますました。優勝マシク点灯後初のホーム・松田スタジアムでの試合ということもあり、三万人を超える観客の盛り上がりは素晴らしいものでした。「君が代」を歌い始めると、場内は静まり、聴き入って下さる空気が伝わりました。そして歌の後半は球場の一体感・あの広い広い松田スタジアムが、選手、観客、みんなが一つになった瞬間でした。歌い終わった時の大きな歓声、拍手、指笛、今も心に残っています。

その様子は動画サイト、YouTube、でも見る

ことが出来ます。(つひる国歌斉唱で検索)

歌の力は改めて、人の心をひとつにするパワーがあると感じました。毎年八十回のコンサートで全国各地を飛び回っていますが、今後も歌の心を伝えていこうと思っています。

昭和五十七年文学部史学科卒

田中 敏雄

卒業して三十五年になります。在学中はお茶の和敬会に在籍して、将来はお坊様になるかと思っていましたが、今は王子ホールディングに勤めています。(紙の製造、ティッシュ等々)

まもなく定年になりますが、元気で頑張っています。

※九月二十日、孫が生まれておじいさんになりました。

平成二十七年文学部日本文学科卒

佐々木 明子

長野県で推進している農業女子のコアメンバーになりました。昨年からは二期生として

昭和五十九年文学部史学科卒

足立 眞由美 (旧姓：前田)

同窓会から依頼された原稿を書いている今日、アメリカ大統領がトランプ氏となったその日は、各国メディアは、ツイッターで言いたい放題の人の人が、これからのような政治をするのかを、あてもなく報道しています。世界の大国が寛容さを

懐の深さと広さを感じるのに十分な講師陣です。ある時、娘が「ママの出身大学は、Fランクだよ」と言いました。「なるほど、Fランクか...」けれど、それは他人の決めた尺度でしょう。花園大学は、入学試験の難易度や、全国大学偏差値のランキングといった、モジュールで計れるほど、底浅い大学では

ないのです。大学名の看板ではなく、オリジナルな「私一わたくし」を掲げて、社会とつながり、人と人をつなげてゆく。花園大学で学び、過したことの価値は、そこにあると思います。



学生の活躍

女子剣道部

私たち女子剣道部は、四回生四名、二回生四名、二回生六名、一回生二名の計十五名で毎日活動しています。現在は、四回生が引退したため、三回生が中心となって、活動しています。私たちの目標は、全日本大会に出場することはもちろんであり、全国で勝ち上がる事です。また、関西大会では、三年連続ベスト8という悔しい結果となり、ベスト8の壁を乗り越え、入賞することを目標にしています。そのため、部員一人ひとりが目標に向かい、チーム丸となって日々の練習に取り組んでいます。練習時間は、基本的に月水金は十七時、火木は十八時、土は十時、日はオフです。他校との練習試合や合同稽古も行います。花園大学剣道部には、大阪府警察名誉師範もされておられる、藩士八段の有馬光男師範が週二回、ご指導してくださります。有馬師範は、剣道の基礎である素振り、足さばきから、基本打ち、応じ技まで、細かく丁寧に指導してくださります。地稽古では、有馬師範が、一時間程の間、休憩もなさらずに、本気で私たちが相手に稽古をつけてくださいます。これほど素晴らしい先生に、稽古、ご指導して頂いている事を、部員一同、いつも幸せに感じています。私たちは、有馬師範から教わった技を一つでも多く身につけるために、ひたむきさを忘れずに日々の稽古に取り組んでいます。全国大会は、毎年愛知県春日井市で行われます。



花園大学 硬式庭球部四代副主将

昭和六十年文学部史学科卒 西澤 直美

二〇一六年十月八日(土)、硬式庭球部三十五周年の記念祝賀会を開催しました。(※実は二〇一五年が三十五周年でしたが、都合により一年遅れで開催いたしました。)祝賀会にはOB・OG、現役含めて五〇名ほどが集い、懐かしい話に花を咲かせ、和やかな時間を過ごしました。明けて十月九日(日)は、花園大学テニスコートに集合。秋晴れの中、ダブルスのゲームで汗を流し、楽しみました。OB・OGのボールを追う姿は楽しそうでした。往年のプレイを思い出されるようなショットも見られました。現役学生の刺激になったようです。二日間のイベントを準備してくれた現役学生に感謝の気持ちでいっぱいです。次は四十周年、元気にまた会いましょう。

※今回、ご連絡先がわからず案内が行き届かなかった方にはお詫言申し上げます。



書籍案内

真理の探究 仏教と宇宙物理学の対話

(幻冬舎新書)

著/佐々木 閑, 大栗 博司

《内容紹介》

心の働きを微細に観察し、人間の真理を追究した釈迦の仏教。自然法則の発見を通して、宇宙の真理を追究した近代科学。アプローチこそ違いうが、この世の真理を求めて両者が到達したのは、「人生の目的はあらかじめ与えられているものではなく、そもそも生きることに意味はない」という結論だった。そのような世界で、人はどうしたら絶望せずに生きられるのか。なぜ物事を正しく見る必要があるのか。当代一流の仏教学者と物理学者が、古代釈迦の教えから最先端の科学まで縦横無尽に語り尽くす。

大いなる叡智が告げる、この世界の真実

- 人には生まれながらにして偏見・先入観が刷り込まれている
- 「マンダラと量子論は似ている」と指摘しても意味がない
- 死後の世界は存在するか
- 生きる意味を自ら見つけることの喜びと困難
- 「正しくなくてもおもしろければいい」の風潮にどう抗するか
- 「深く正しく理解する」ことが真の幸せにつながる



共著者について

大栗 博司：米国カリフォルニア工科大学理論物理学研究所所長、フレッド・カブリ冠教授。東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構主任研究員と米国アスペン物理学センター所長も務める。1962年生まれ。京都大学理学部卒業、東京大学理学博士。シカゴ大学助教授、京都大学数理解析研究所助教授、カリフォルニア大学バークレイ校教授などを歴任したのち現職。専門は素粒子論。アメリカ数学会アイゼンバッド賞、フンボルト賞、仁科記念賞、サイモンズ賞、中日文化賞などを受賞。アメリカ芸術科学アカデミー会員。

長宗我部元親 盛親 平井上総著

四国一篇に切随へ、恣に威勢を振ふ

信長・秀吉家康は敵か味方か... 土佐の戦国大名、苦難の興亡。

「長宗我部元親・盛親 四国一篇に切随へ、恣に威勢を振ふ」 (ミネルヴァ書房)

著/平井上総 (日本史学科) 2016年8月刊

《内容紹介》

戦国時代、土佐国の国人から四国全域に支配を拡大した戦国大名として知られる長宗我部元親と、関ヶ原の戦いで領地を失い大坂の陣で豊臣方の大将の一人として活躍した長宗我部盛親の、父子の生涯を描いたもの。新発見の古文書や最新の研究に基づいて、戦国時代から江戸時代にかけて大名がどのように生き抜こうとしていたかを詳細に迫った。

白隠禅師250年遠諱記念

原の白隠さん 入館料無料

—松蔭寺と静岡沼津伝来の禅画・墨蹟—

【会場】 花園大学歴史博物館 (無聖館四階)

休館日：日曜日、5月5日(金・祝)・6日(土)

※但し、大学行事により臨時休館する場合があります。

開館時間：午前10時～午後4時(土曜日は午後2時まで)

【会期】 2017年4月3日(月)～6月10日(土)

前期：4月3日(月)～5月4日(木・祝)

後期：5月8日(月)～6月10日(土)

※会期中、大幅な作品の展示替を行います。



白隠慧鶴(1685～1768)の由緒寺院として、その代表にあるのが住持をつとめた松蔭寺(静岡県沼津市原)。沼津を中心とする静岡地方には、白隠による夥しい数の禅画と墨蹟が伝来しています。まさに白隠遺墨の宝庫といえましょう。

これまで、松蔭寺をはじめ沼津地方の禅宗寺院に伝来する白隠遺墨は、展覧会などを通じて紹介されてきました。しかし、松蔭寺に蔵される白隠遺墨がまとめて展覧されたことはありません。本展覧会では、松蔭寺の全面的協力のもと、同寺に蔵される白隠の禅画と墨蹟の全貌を紹介します。

さらに、沼津の禅宗寺院に伝来する白隠の画賛作品をあわせて展覧し、白隠画の魅力に迫ります。沼津の地において「白隠さん」と親しまれた白隠の禅風に触れていただくとともに、庶民に向けた数々の禅画により、白隠が私たちに投げかける問いを再認識する機会となれば幸いです。

※白隠禅師250年遠諱事業は、平成28年度から平成29年度の2ヶ年にわたり厳修されます。

【主催】 臨濟宗妙心寺派、花園大学歴史博物館

【協賛】 学校法人 花園学園 おかげさまで創立150周年(法人本部 花園大学 花園中学高等学校 洛西花園幼稚園)

就職課

2016年3月卒業生の就職希望者の内定率は94.9%となり、2年続けてアップいたしました。「面倒見のよい大学」の「面倒見のよい就職課」として、対話(キャリアカウンセリング)を通して、ひとりひとりに向き合い、寄り添いサポートする事を就職課の取組みの柱として、続けてきた結果だと思えます。ご存知の通り、現代の就活はWEB上でのやりとりが主流になっています。情報を見て、読んで、理解して、こちらの情報をメール等で伝える事になり、必然的に文章力、読解力といった基本的な日本語力が必要になります。面接では、礼儀・作法・言葉遣いといった一般常識が問われます。今の学生にはいずれも苦手なもの。ひと昔前なら自然と身につけていたこれらの力が少子化、核家族化、IT化等によって教えないと身につかないものになっています。就職課では、社会で必要とされる基本的なスキルを身に付ける講座と就職対策をラインナップしています。漢字能力検定・日本語検定の奨励、電話応対・マナー講座、履歴書添削講座、面接対策、SPI・就職試験対策など多岐にわたります。その時代に必要なものは何かを見極め、学生が社会に出るための準備や、卒業後の進路実現に結びつけられる支援に取り組んでいます。



花園大学同窓会員のみなさまへ
大学の「今」がわかる「ホームページ」、ぜひご覧ください。



①卒業生の方を
クリックしてください。

ZEN to you&you



②過去の同窓会通信は
こちらをクリックしてください。



同窓会サイトも、旬な情報の提供をこころがけてまいります。
みなさまからの情報提供・近況報告など、お寄せください。



花園大学
twitter @hanazono Univ

<https://twitter.com/hanazonouniv>



花園大学 同窓会通信 94号 2017.3 発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

同窓会事務局

電話 (075) 811-5181 (代)

(075) 279-3630 (直)

F A X (075) 823-2412 (直)

URL <http://www.hanazono.ac.jp>

E-mail renkei@hanazono.ac.jp